五月礼讃（らいさん）　　与謝野晶子

五月（ごぐわつ）は好（よ）い月、花の月、
芽の月、香（か）の月、色（いろ）の月、
ポプラ、マロニエ、プラタアヌ、
つつじ、芍薬（しやくやく）、藤（ふぢ）、蘇枋（すはう）、
リラ、チユウリツプ、罌粟（けし）の月、
女の服のかろがろと
薄くなる月、恋の月、
巻冠（まきかんむり）に矢を背負ひ、
葵（あふひ）をかざす京人（きやうびと）が
馬競（うまくら）べする祭月（まつりづき）、
巴里（パリイ）の街の少女等（をとめら）が
花の祭に美（うつ）くしい
貴（あて）な女王（ぢよわう）を選ぶ月、
わたしのことを云（い）ふならば
シベリアを行（ゆ）き、独逸（ドイツ）行（ゆ）き、
君を慕うてはるばると
その巴里（パリイ）まで著（つ）いた月、
菖蒲（あやめ）の太刀（たち）と幟（のぼり）とで
去年うまれた四男（よなん）目の
アウギユストをば祝ふ月、
狭い書斎の窓ごしに
明るい空と棕櫚（しゆろ）の木が
馬来（マレエ）の島を想（おも）はせる
微風（そよかぜ）の月、青い月、
プラチナ色（いろ）の雲の月、
蜜蜂（みつばち）の月、蝶（てふ）の月、
蟻（あり）も蛾（が）となり、金糸雀（かなりや）も
卵を抱（いだ）く生（うみ）の月、
何（なに）やら物に誘（そゝ）られる
官能の月、肉の月、
ヴウヴレエ酒の、香料の、
踊（をどり）の、楽（がく）の、歌の月、
わたしを中に万物（ばんぶつ）が
堅く抱きしめ、縺（もつ）れ合ひ、
呻（うめ）き、くちづけ、汗をかく
太陽の月、青海（あをうみ）の、
森の、公園（パルク）の、噴水の、
庭の、屋前（テラス）の、離亭（ちん）の月、
やれ来た、五月（ごぐわつ）、麦藁（むぎわら）で
細い薄手（うすで）の硝杯（こつぷ）から
レモン水（すゐ）をば吸ふやうな
あまい眩暈（めまひ）を投げに来た。